

地域シンポジウムの成果普及と今後のIT活用について

和歌山県立紀央館高等学校 副校長 小山宣樹

koyama@kiokan-h.wakayama-c.ed.jp

キーワード：IT活用、地域シンポジウム

1. はじめに

平成18年11月和歌山県で開催された「先進IT活用教育シンポジウム in 和歌山」は、平成18年度教育情報化促進基盤整備事業の普及・啓発活動の一環として、初等中等教育におけるITの有効活用とITリテラシーの向上を図ることを目的に実施された。その成果普及と今後のIT活用について、本県の学校、行政、企業等からの発表者にインタビューを行った。ここにその概要を報告するとともに、このような地方開催シンポジウム（以下、地域シンポジウムと言う。）の意義について考えてみたい。

2. 成果普及と今後のIT活用

2.1 和歌山市の学校情報セキュリティの取組（和歌山市立教育研究所 角田佳隆）

（1）概要

平成19年度は、セキュリティ意識の向上のため、情報教育担当者、管理職、教職員を対象に情報モラル、情報セキュリティの研修を実施した。また、スパムメール対策、不正アクセス防止等の強化を行い、ネットワーク環境の安全性を高めた。個人認証システムについては、USB認証キー及びファイル暗号キーを管理職、役職者等に配付した。今後全員に配付する予定である。セキュリティポリシーの見直しについては、教育委員会レベルではできているが、現在、学校現場とのすり合せを行っている。また、小学校にタブレットPCを配付し、基礎学力の向上を図っている。中学校では、平成23年端末の入れ替えが予定されている。これに併せ、センター設備を所有せず、ASPサービスの導入を考えている。

（2）地域シンポジウムの意義

地域シンポジウムによって一般の教員にもセキュリティや情報モラルの重要性を知ってもらうきっかけとなった。また、各地の取組の様子を知ることで、意識の向上につながった。

2.2 きのくにeラーニングシステムを活用した教材研究（広川町立南広小学校 上田敏樹）

（1）概要

和歌山県教育センター学びの丘ではきのくにeラーニングシステムを教員研修に生かしている。この取組は、小学校・中学校国語科グループが「書く」領域を中心に児童生徒が言語を使って表現したくなるような教材の研究を行ったものである。平成19年度、和歌山県教育センター学びの丘では、きのくにeラーニングシステムを英語集中研修、初任者研修の課題研究、情報・理科・社会等の専門研修等の他、教育iDC（インターネットデータセンター）等にも活用を広げている。本システムは、インターネットエクスプローラ（IE）をインターフェイスとしているため、受講者の広がり期待できるが、新たなOSへの対応等が課題となっている。

（2）地域シンポジウムの意義

きのくにeラーニングシステムを活用した教材研究について広く参加者に知っていただくとともに、今後の現職教育や共同研究に役立てていただけるものと期待している。

2.3 Linuxを利用した校内LANの構築と情報活用能力の育成（みなべ町立上南部中学校 鈴木 忍）

（1）概要

上南部中学校では、Linuxサーバを導入し、視聴覚室（コンピュータ教室）と職員室を繋げるとともに、Webサーバ、プロキシサーバ、ファイルサーバ、メールサーバ等のサービスを提供している。現在、技術家庭、総合的な学習の時間等での活用や学校行事等の画像データの共有等に活用している。特に、生徒一人ひとりにアカウントを発行し、電子メールの活用を図っている。また、誰でも操作できるようマニュアルの整備を徐々に進めている。

（2）地域シンポジウムの意義

シンポジウムでは100名以上の参加者に発表を聞いていただくことができた。発表当時課題としていた利用しやすい環境構築のための機器整備はできていないが、職員は操作等で困ることなく、シンポジウムの波及効果で思っていた以上に活用してもらっている。

2.4 IT活用でオープンソースを活用した校内ネットの構築と運用（田辺工業高等学校 尾花 敦）

（1）概要

